

# 音楽と私

取手SE 石岡SE 宮崎 正

小学校1年生の時の教科書が兄や近所の先輩のおさがりだったりで、曲目も違い歌が好きになれませんでした。上級生になるころ、親からやっと教科書を買って貰うことが出来ました。簡単に音楽は好きになれませんでした。6年生の時、運動会で鼓笛隊をすることになり、「富士の山」を披露することになり、私は笛のパートでしたが、私を含めた何人かの友人がなかなかうまく吹けません。

校長先生も「吹けない者は吹く真似だけしていればよい」と声を大にして言います。今では問題発言になるのではないかと思います。当時は頭を叩かれることも度々あり、私は大変悔しく思いながらも本気で覚えて、なんとか運動会で吹けるようになったことを覚えています。結果的に良かったと思います。今でも「富士の山」の運指は体に刻まれています。

その後、中学生の頃から兄の影響でガット弦のギターを触り始めました。高校生になり、エレキブームが到来したのは新鮮でした。偶然、音楽の先生が、今もエレキギターを弾いている寺内タケシと小学校、中学校と同級生だった方で、私は先生に興味をもち授業を真面目に受けました。自分ながら驚くほど音楽のテストだけ良い成績をとったこともあります。ザ、モンキーズショーも週1度テレビで放映してました。彼ら4人のメンバーの名前は「ディビー、ジョーンズ」「ミッキートレンツ」「マイク、ネスミス」「ピータートーク」です。毎週楽しみに観ていました。特に「ディドリーム、ビリーパー」という曲は今でも好きな曲です。直訳しますと「白昼夢」となるようです。

さて、ヴァイオリンを始めたきっかけは、つくば市のショッピングモールにヤマハの店が出来て、たまたま店の前を通りがかりエレキヴァイオリンの音色を聴いたことが泥沼に足を踏み入れた第1歩でした。妙齢な女性がヤマハのサイレントヴァイオリンを弾いて指でビブラートを付けなくても、エフェクターでビブラートを付けられることが出来、さまざまな音色をかもしだす、と云うのが売りのデモンストレーションです。演奏するなかで、最後の頃に「愛の挨拶」と「チャルダッシュ」を弾いてくれました。「愛の挨拶」を聴いているあたりから自然に涙がでてきてしまい「チャルダッシュ」の時には涙が目から溢れるようでした。これまでフォークギターやエレキギターは弾いていましたが涙がでるほど感動をしたことはありません。出来ることなら自分でも弾いてみたいと云う一心で早速そのサイレントヴァイオリンを購入致しました。また「ヴァイオリン入門」などDVDを購入し自分なりに弾いていましたが、聴くとやるとでは大違いです。



幸いにもそのころ近所のショッピングモールにヤマハの音楽教室が開校しました。私が59歳頃と記憶しています。仕事をしていましたので夜の部の個人レッスンを申し込み、ヴァイオリンとアンプ一式を車に積み毎週月曜日夜のレッスンに通いました。レッスンは短く30分間です。アンプ、エフェクター、ヴァイオリンと接続していますと5分、10分はあっという間に過ぎてしまいます。レッスン時間が惜しく、また先生の奨めもありまして2年位してからアコースティックのヴァイオリンを購入致しました。ヴァイオリン歴はまだ6年位ですが昨年からは教室主催の発表会にも出させて頂いています。今年は7月に先生と2重奏を演奏させて頂きました。これもまたシニアアンサンブルとの出会いがあったからと思っています。

今でも、ヴァイオリンを弾いているより、ノコギリをひいていたほうが似合っていると言われます。が、誰に何と言われようとこれからも、めげずにあきらめずにヴァイオリンを弾き続けようと思っています。SEをはじめ、出前演奏で聴いて泣いて喜んで下さる人がいたり、定演や全国大会で皆を喜ばせたり、取手と石岡の代表として、又、全シ連の理事として皆のお世話をさせて頂き、社会に貢献できる自分に幸せを感じています。